

## 第9回大分県高大連携シンポジウム開催

2019(平成 31)年3月9日(土)大分大学経済学部 101号教室において「グローバル社会で求められる能力～高等学校、大学でどのようにその能力を身に付けるか」のテーマの下に開催しました。

これからのグローバル社会で活躍できる人材はどのような人材であるかを考えると共に、グローバル社会で必要となる英語能力を高等学校、大学でどのように伸ばしていくかという観点からこれからの高等教育について考えることを目的に基調講演、事例報告、パネルディスカッションを行い、県内外から132名の来場者がありました。

開会にあたり、主催者を代表して大分大学越智義道教育担当理事から北野正剛学長のメッセージが伝えられ、続いて後援者である大分県教育員会を代表して姫野秀樹教育次長から大分県教育委員会が取り組んでいる「大分県グローバル人材育成推進プラン」の説明を含めたご挨拶がありました。

基調講演は「グローバル社会を担う若い皆さんへ」と題して、元 Google 日本法人名誉会長で大分県佐伯市出身の村上憲郎氏に行っていました。村上氏からは



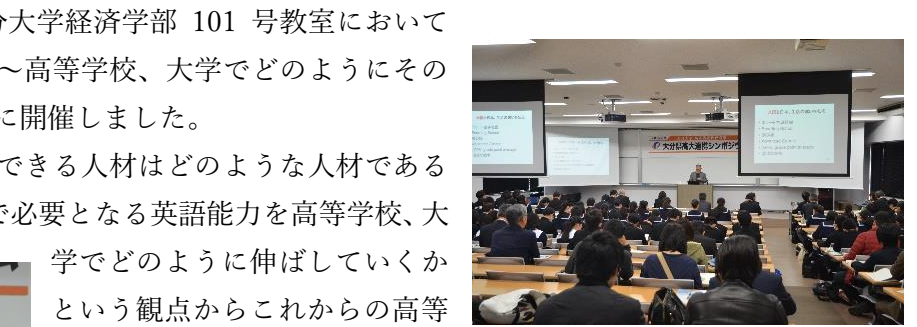
米本さん 池田さん 麻生さん 姫野さん 藤塚先生 大下先生

グローバル人材とは Transnational 人材のことであり、人生の各段階をその段階ごとにその段階のこと(例えば子育て)を最も効率的に行える国で行う人であり、「地球人」というべき人材と定義されました。国籍などを問題にせず自由に生活拠点を移す生き方をする人材ということでした。またご自身の経験をもとにされたリスニング中心の英語学習法も披露されました。

事例報告では大分県立大分上野丘高等学校1年生の麻生万葉さん、池田遥さん、米本優太さんの3名が「SGH 課題研究を通して学んだこと」、大分大学経済学部3年生の姫野大喜さんが「IBP にてフィンランド TAMK 大学に留学して学んだこと」、大分県立三重総合高等学校の藤塚紀子先生が勤務校での3年間の実践を、大分大学医学部の大下晴美先生が「大学におけるこれからの英語の学び-指導者の観点から-」と題し、それぞれの経験を踏まえたお話をされました。高校生や大学生は一律に、単に外に目を向けるだけではなく自分の住む地域や国のことを知っていることも大切であると語り、両先生はともにアウトプットに力を入れた実践を報告してくださいました。その後、大分大学望月聡副学長をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。



曾根崎高英研会長 大崎経済学部長



基調講演

村上氏

グローバル人材とは Transnational 人材のことであり、人生の各段階をその段階ごとにその段階のこと(例えば子育て)を最も効率的に行える国で行う人であり、「地球人」というべき人材と定義されました。国籍などを問題にせず自由に生活拠点を移す生き方をする人材ということでした。またご自身の経験をもとにされたリスニング中心の英語学習法も披露されました。

事例報告



閉会挨拶

閉会にあたり、大分県高等学校英語教育研究会会長の曾根崎靖先生から新しい学習指導要領を先取りした実践がすでに行われていることなどが紹介されました。最後に大分大学大崎美泉経済学部長より謝辞が述べられシンポジウムを閉じました。

閉会にあたり、主催者を代表して大分大学越智義道教育担当理事から北野正剛学長のメッセージが伝えられ、続いて後援者である大分県教育員会を代表して姫野秀樹教育次長から大分県教育委員会が取り組んでいる「大分県グローバル人材育成推進プラン」の説明を含めたご挨拶がありました。

基調講演は「グローバル社会を担う若い皆さんへ」と題して、元 Google 日本法人名誉会長で大分県佐伯市出身の村上憲郎氏に行っていました。村上氏からは

グローバル人材とは Transnational 人材のことであり、人生の各段階をその段階ごとにその段階のこと(例えば子育て)を最も効率的に行える国で行う人であり、「地球人」というべき人材と定義されました。国籍などを問題にせず自由に生活拠点を移す生き方をする人材ということでした。またご自身の経験をもとにされたリスニング中心の英語学習法も披露されました。